

「疾病予防と治療月間に因んで」

さて 12 月は、RI の 6 大重点項目の 1 つである「疾病予防と治療月間」です。

世界の中でも日本は長寿社会で、2018 年の日本人の平均寿命は男性が 81.25 才で世界3位女性が 87.32 才で世界 2 位で、男女合わせれば平均寿命は 84.29 才で依然として世界一の長寿国です。

しかし日本も以前は欧米に比べて決して長くなく、明治時代の男女平均寿命は 43 才、大正時代が 46 才であり、むしろ寿命の短い国に分類されていました。

しかし昭和 50 年にスウェーデンを抜き、世界一の長寿国になったのを契機として現在まで世界一を誇っています。その理由の一つとして戦後、生活環境の改善によって、日本人の栄養状態がよくなったからと言われています。

感染症で亡くなる割合が減り、母子保健の充実により、乳幼児・新生児の死亡率が極端に低下したことが日本人の平均寿命を大幅に延ばした要因の 1 つとして挙げられています。

ところで世界に目を向けますとまだまだ乳幼児の死亡率が高い国が多く存在しております。その高い乳幼児死亡率が国民の平均寿命を下げている最大の要因です。

RI は世界の子供達を守る目的で「世界からポリオを撲滅する」という壮大な計画をたてましたが、当初はロータリアンの中には半信半疑の状態でありました。

それも、ロータリーがポリオ根絶を宣言した30年前には、世界 125 カ国で 35 万人のポリオの子供達を確認されていたからです。

ポリオの発生国はパキスタン、アフガニスタンの 2 カ国のみと聞いていましたが、先日の谷口会員の卓話で3カ国と話されていたので「あれ？」と思いましたが、残念なことに再び、ナイジェリアが加わっていました。

ポリオ撲滅運動がいかに難しい事業かを改めて認識したところです。

私たちロータリアンは地球上からポリオがなくなる日が来るまでは、決して手を緩めることなく支援すべきと思います。

更に乳幼児死亡率を高めるもう 1 つの重要な要因として不衛生な環境の問題が挙げられます。特に水の問題は深刻で現在でも 31 カ国が水不足に悩んでおり、12 億人の人は不衛生な環境で暮らしております。

開発途上国における病気の 80%は汚水が原因とも言われています。

また、開発途上国での人口の増加が更に水不足に拍車をかけており、そのことが食料生産に支障をきたすと共に労働力の低下を招き、途上国の開発・発展に大きな妨げになっています。

このように水問題は、疾病の予防の意味でも避けて通れない課題です。

世界のすべての子供達が安全で健康な暮しができる日がいつか来ることを願いながら我々もできる範囲で、グローバルな奉仕活動に取り組んで行きたいと思えます。